

令和5年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和5年5月15日(月) 17:00～18:00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：4名

井岡亜希子(まるレディースクリニック院長)、埴岡健一(国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授)、有賀拓郎(琉球大学病院診療情報管理センター副センター長)、増田昌人(琉球大学病院がんセンター長)、

欠 席：5名

天野慎介(全国がん患者団体連合会理事長)、伊藤ゆり(大阪医科大学研究支援センター医療統計室室長・准教授)、東尚弘(東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授)、平田哲生(琉球大学病院診療情報管理センター長)、伊佐奈々(琉球大学病院がんセンター・診療情報管理士)

陪 席：1名

西佐和子(琉大病院がんセンター事務)

【報告事項】

1. 令和5年度 第3回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき令和5年度第3回ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. その他

増田部会長より、第1回がん対策推進計画検討会が6/13(火) 15:00～17:00の開催でほぼ決定していると報告があった。また、直近のスケジュールとして5/19(金)までに「共生分野」「基盤分野」のロジックモデルの原案を作成し、協議会委員に送ると説明があった。

【協議事項】

1. 沖縄県がん計画(協議会案)のロジックモデルの修正

増田部会長より、資料2-1、2-2、2-3、2-6に基づき説明があり、委員に各分野のロジックモデルについて意見を求めた。

<がんの予防>

➤ 分野アウトカムに死亡の減少を記載する

埴岡委員より、沖縄の第二次や秋田では死亡と罹患を並列していた。見せ方次第ではある。参考値としてのせてもよいのではないかと意見があった。

➤ HPVワクチンの副反応対策を記載する

埴岡委員より、HPV ワクチンの副反応に関して、しっかりとモニタリングケアすることは入れてた方がよいと意見があった。

<がん検診>

- がん検診の精度管理等について、国がん主催の研修を入れる

増田部会長より、国がん主催の研修があるが、県の計画に入れた方がよいか、委員に問われた。

井岡委員より、研修の内容によるが、科学的根拠のないがん検診を実施する市町村の数を減らしたい。前立腺がん検診や乳がん超音波検査などは有効であることが証明されていないことを担当者に研修で伝えないと減らない。がん検診の担当者は数名であるが、科学的根拠のないがん検診までも実施していると、本来やるべき検診ができない。

- 受診率対策について

井岡委員より、県は職域等におけるがん検診や人間ドックについて、把握していないと思われるので、県に対して説明が必要ではないかと意見があった。

<共生>

- 相談支援の中間アウトカムについて受けられているに変更
- デジタル化のロジックモデルについて文字制限をして短縮化
- アピランスケアの中間アウトカムについて、受けられているに変更
- 相談支援の指標に NDB-SCR/NDB を追加
- 情報提供の指標に NDB-SCR/NDB を追加

埴岡委員より、上記の通りロジックモデル（3点）、指標（2点）の修正があった。

- その他の社会的な問題について個別施策を作成（疎外感の解消と偏見の払拭）
- 相談支援センターのロジックモデルを再考

増田部会長より、傾聴型ではなく問題解決型のがん相談支援センターにすること等、県計画に取り上げなければならないことを再考すると説明があった。

- デジタル化の初期アウトカム及び指標に離島へき地を含めて、遠隔診療を追加

埴岡委員より、遠隔診療ができている及びがんの遠隔診療件数を追加した方がよいのではないかと意見があった。

増田部会長より、専門医が少ないからデジタルでカバーする等を入れてもよいのではないかと。有賀委員に作成をお願いしたいと依頼があった。

2. その他

- 県の全体目標にがん死亡の減少が入っているか確認する
- アクションプラン作成

井岡委員より、予防と検診に力を入れるのであれば、アクションプランを作成したい。予防と検診は関わる機関が多いので、アクションプランがあった方が一体感が持ててよいと意見があった。

- 増田部会長より、井岡委員に予防と検診の内容について確認をお願いしたいと依頼があった。
- 増田部会長より、埴岡委員に全体の確認をお願いしたいと依頼があった。